

意図理解を含む人の通信方式の 解明と活用

キーワード 意図理解 / 言語 / コミュニケーション / 人工知能 / 認知科学



研究概要

ことばに代表される人の通信方式においてユニークなのは、直接目には見えない「意図」を介して他者と情報を伝え合うことであり、かつ、記号の形式的な操作の力を使いながら新しい意味を創造する点にあります。前者は情報伝達の道具としての言語、後者は思考の道具としての言語と言われています。

我々は、そんな人独自の通信方式を理解し、活用するための研究を進めています。一例として、人どうし、あるいは人と計算機で簡単な人工言語を作成する実験(図1)や、モニタに映し出される簡単な図形を介した他者とのインタラクション実験(図2)を行なっています。

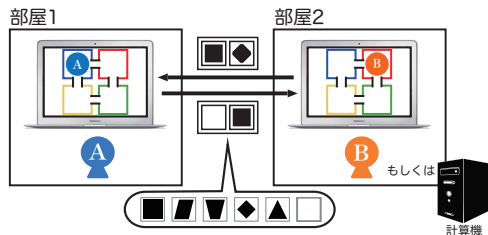


図1. 二者間で人工言語を作り出す実験

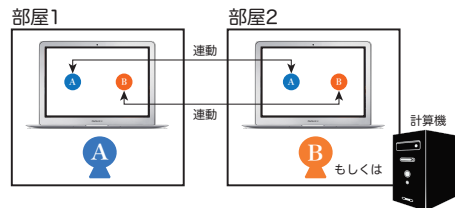


図2. 仮想オブジェクトを介した視覚的コミュニケーション実験

今後の展開やメッセージ

人工言語を作成する実験から得られる知見を基に、通信方式自体を相手と自律的に取り決める技術への発展を検討したいと考えています。また、図形のインタラクション実験を通じて得る知見は、人間と人工知能(人型ロボットなど)との自然なターンテイクング(話し手と聞き手の交代)の実現に貢献できるのではないかと考えています。

研究者情報



金野 武司 准教授・博士(知識科学)

工学部 電気電子工学科

所属研究所: 電気・光・エネルギー応用研究センター

研究者情報URL

<https://www.kanazawa-it.ac.jp/kyouinroku/a/BGACB.html>

<https://researchmap.jp/37450609>